

# ConsoleDA Manager インストールガイド

マニュアルはよく読み、大切に保管してください。  
製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。  
このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

## -目次-

<b>1 ConsoleDA Manager インストールの前に</b> .....	<b>1</b>
1-1 注意事項 .....	1
1-2 Microsoft® SQL Server®のインストールと設定 .....	1
1-3 .NET Framework3.5 のインストール .....	4
<b>2 ConsoleDA Manager のインストール</b> .....	<b>7</b>
<b>3 ConsoleDA Manager のアンインストール</b> .....	<b>11</b>
<b>4 環境設定ファイル</b> .....	<b>12</b>

### 重要なお知らせ(注意事項)

- 本書をよくお読みになってから、製品をご使用ください。
- 本書の内容は、将来予告なしに変更される場合があります。
- 本書の内容の一部、または全てを無断で転載することを禁止します。

Copyright © Hitachi, Ltd. 2013 all rights reserved.

### 他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

- Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、SQL Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows®の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating System です。
- その他、会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

# 1. ConsoleDA Manager インストールの前に

## 1-1 注意事項

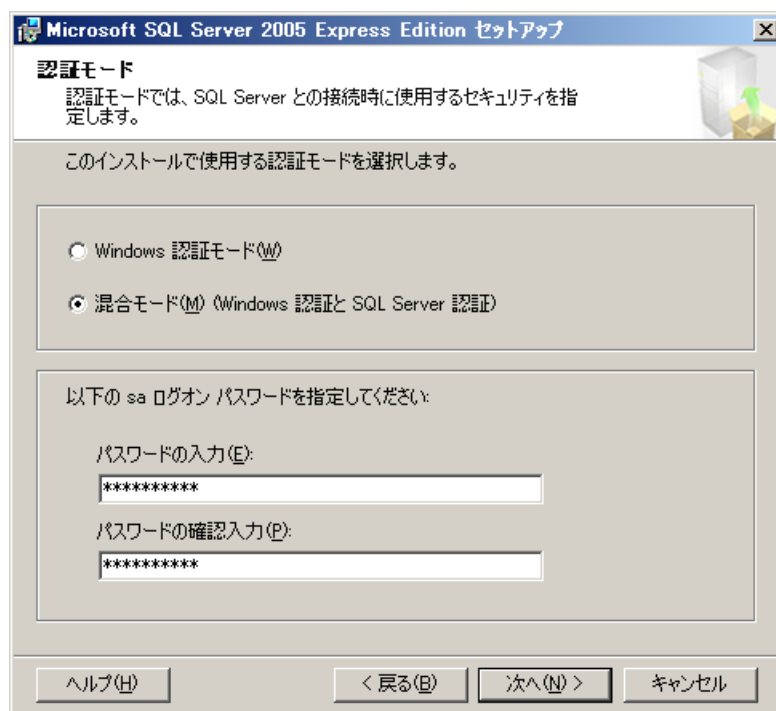
- 本セットアッププログラムは管理用サーバにインストールしてください。
- セットアッププログラムでインストールされるプログラムは下記以外での動作を保証しておりません。
  - Windows Server® 2003 SP2
  - Windows Server® 2003 R2 SP2 32bit
  - Windows Server® 2008 SP2 32bit, 64bit
  - Windows Server® 2008 R2 SP1
  - Windows Server® 2012
- ConsoleDA Manager と Microsoft® SQL Server®は同じ PC・サーバにインストールしてください。
- ConsoleDA Manager をインストールする前に Microsoft® SQL Server®をインストールしてください。また、あわせて Microsoft® SQL Server® Management Studio のインストールも行ってください。
- ConsoleDA Manager のインストールを実行するには、インストールする PC・サーバの管理者権限を持つユーザーでログオンしてください。

## 1-2 Microsoft® SQL Server®のインストールと設定

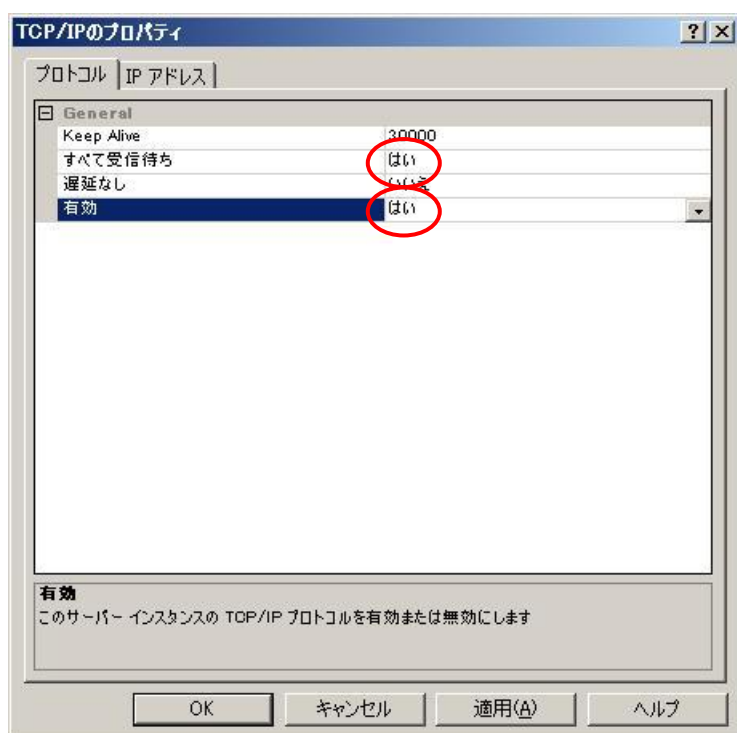
以下の説明文中の画面は Microsoft® SQL Server® 2005 SP3 Express Edition のものですが、他のバージョンや Edition を使用する場合も同様に設定してください。

ConsoleDA Manager は SQL Server 認証を使用しデータベースへアクセスを行います。

Microsoft® SQL Server®のインストール時に指定する認証モードは「混合モード(M) (Windows 認証と SQL Server 認証)」を選択してください。また、sa ログオンパスワードには任意の文字列を設定してください。



SQL Server 構成マネージャでプロトコルの TCP/IP を「有効」に、「すべて受信待ち」を「はい」にそれぞれ設定してください。また他のプロトコルは ConsoleDA Manager では使用しませんので、特に必要がない場合は無効に設定してください。



SQL Server 構成マネージャを起動し、サービスの設定を行ってください。

SQL Server (インスタンス名)のプロパティ

[ログオン]-[ビルトインアカウント]を「ネットワークサービス」に設定

SQL Server Browser のプロパティ

[ログオン]-[ビルトインアカウント]を「ネットワークサービス」に設定

[サービス]-[開始モード]を「自動」に設定

サービスが開始していない場合は、サービスを開始



<b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>Windows® Firewallやセキュリティ製品が提供するFirewall機能を使用する場合は、設定を調整してください。</li><li>システムの運用に伴い、トランザクションログが蓄積されていきます。これを長期間放置しますと、サーバのストレージを圧迫しシステムの動作に支障をきたすことがあります。定期的にログのバックアップや切り捨てなどを行う運用をお勧めします。</li></ul>
-----------	--

### 1-3 .NET Framework3.5 のインストール

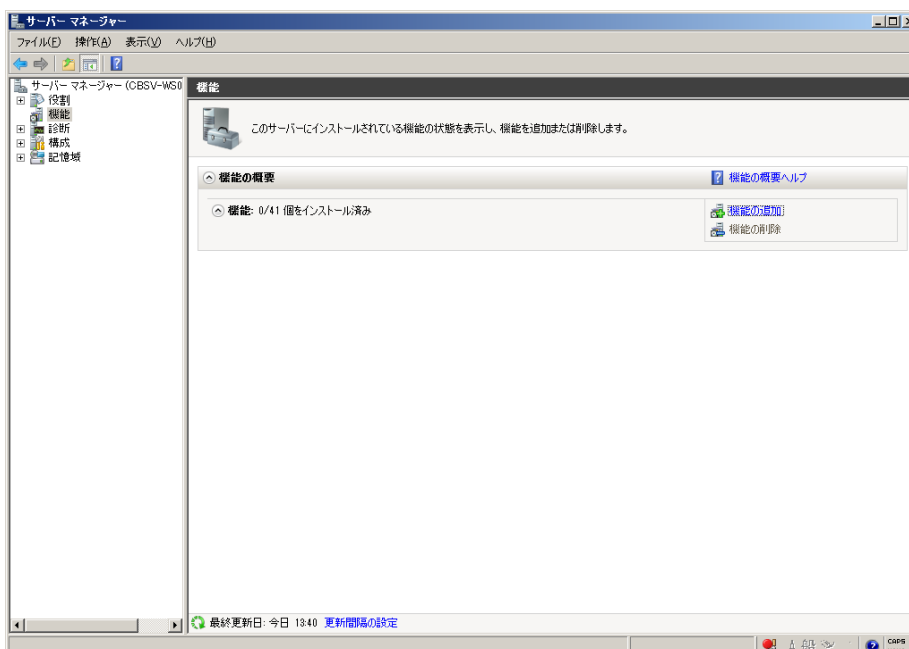
インストールする PC・サーバの環境によっては、下記要件のインストール画面が表示される場合があります。これらの画面が表示された場合は、「インストール」をクリックして要件のインストールを行ってください。



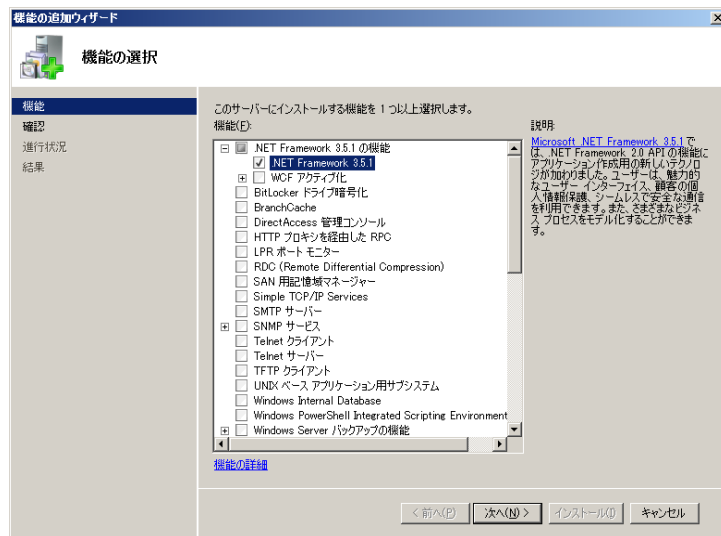
#### <Windows Server® 2008 SP2 64bit または Windows Server® 2008 R2 SP1 の場合>

.NET Framework 3.5 を手動でインストールする必要があります。次の手順にしたがって.NET Framework 3.5 をインストールしてください。

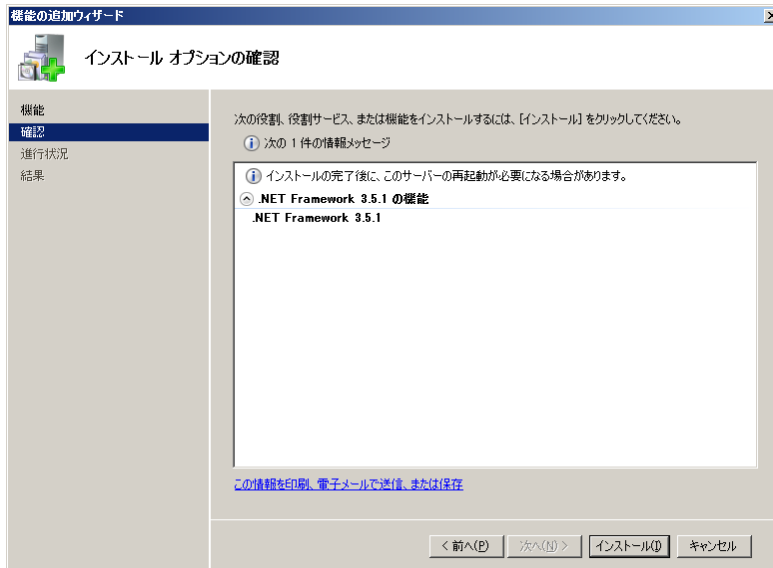
1. サーバーマネージャーを起動してください。
2. 左メニューから[機能]を選択し、右にある[機能の追加]を選択してください。



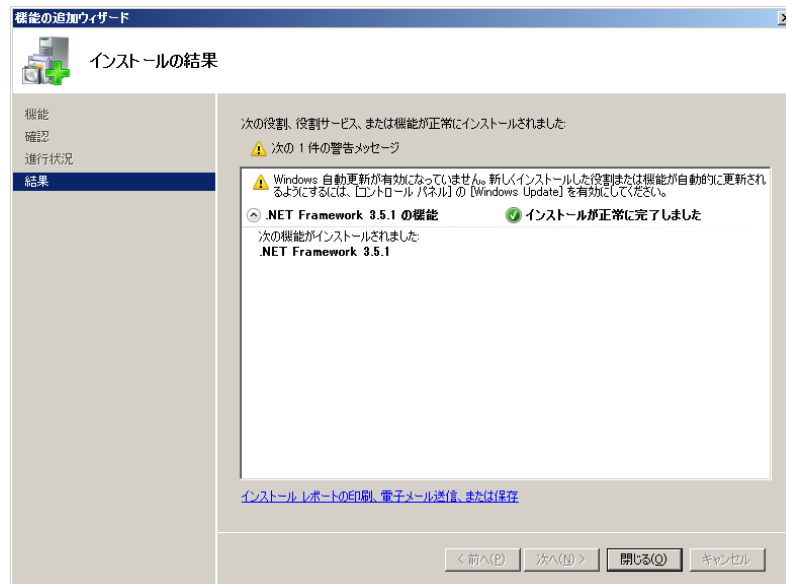
3. 画面最上の[.NET Framework 3.5.1 の機能]の[+]を選択し、「.NET Framework3.5.1」のチェックボックスにチェックし、[次へ(N)]をクリックしてください。



4. 「インストール(I)」をクリックしてください。



5. 「閉じる(O)」をクリックすればインストール完了です。



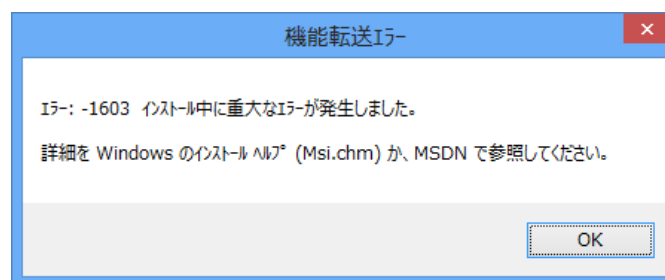
#### < Windows Server® 2012 の場合 >

手動で .NET Framework 3.5 をインストールする必要があります。インターネットに接続されている場合は、コントロールパネルの「プログラムの機能」-「Windows の機能の有効化または無効化」で .NET Framework 3.5 を有効化してください。

インターネットに接続されていない場合は、OS インストールメディアや ISO イメージを用意していただく必要があります。OS インストールメディアや ISO イメージをマウントして、コマンドプロンプトより下記コマンドを実行してください。(マウント先のドライブによって「E:¥」の部分を変更してください。)

```
DisM.exe /online /enable-feature /featurename:NetFX3 /All /Source:E:¥sources¥sxs /LimitAccess
```

.NET Framework 3.5 をインストールせずにセットアップを実行しますと、下記のエラーが表示されます。





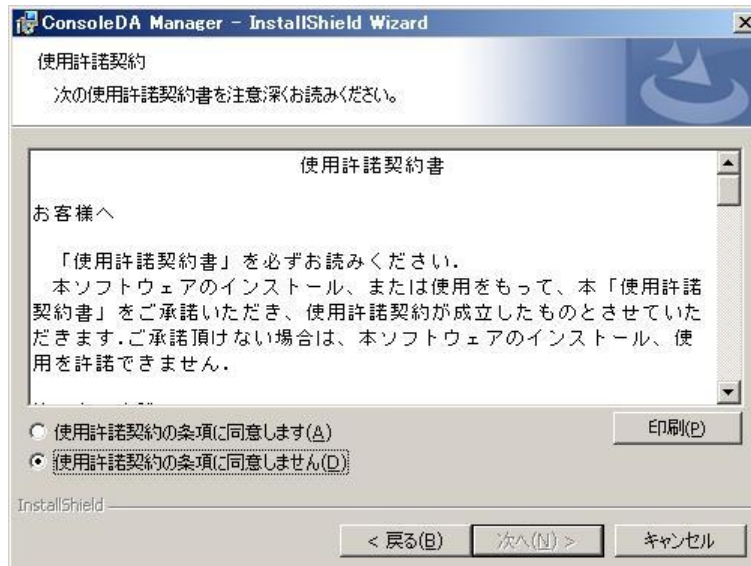
## 2 ConsoleDA Managerのインストール

•ConsoleDA Manager をインストールするには、次のように操作します。

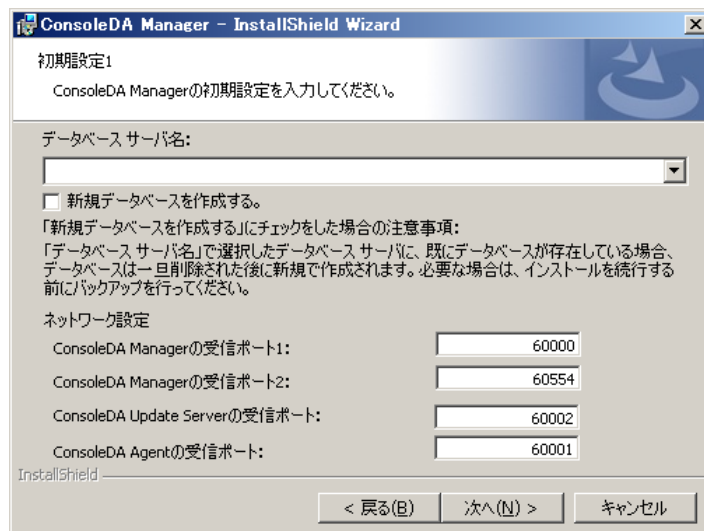
1. Hitachi bd Link Version3 /CB または Hitachi bd Link Version3 /SV のインストールメディアの「Installer」フォルダーにある ManagerSetup.exe を実行し、「次へ(N)>」をクリックしてください。



2. 「使用許諾契約」では使用許諾契約書内容をご確認の上、「使用許諾契約の条項に同意します」を選び、「次へ(N)>」をクリックしてください。



3. 「初期設定1」では、データベースサーバ名および ConsoleDA Manager が使用するポート番号を設定し、「次へ(N)>」をクリックしてください。

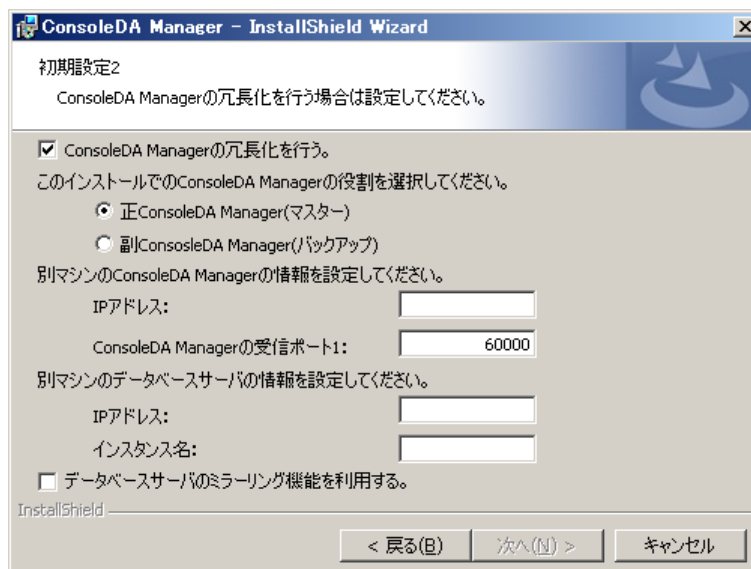


#### 入力項目の説明

データベースサーバ名:	データベースサーバ名を指定します。
新規データベースを作成する。	Microsoft® SQL Server®に ConsoleDA 用のデータベース設定・初期化を行います。初回インストール時は必ずチェックをしてください。
ConsoleDA Manager の受信ポート 1:	ConsoleDA Manager がコマンドを受信する TCP ポート番号。1～65535 の範囲で指定します。
ConsoleDA Manager の受信ポート 2:	ConsoleDA Manager がコマンドを受信する TCP ポート番号。1～65535 の範囲で指定します。
ConsoleDA Update Server の受信ポート:	ConsoleDA Update Server (アップデート機能用のサービス)がコマンドを受信する TCP ポート番号。1～65535 の範囲で指定します。
ConsoleDA Agent の受信ポート:	ConsoleDA Agent にコマンドを送信するときに宛先とする TCP ポート番号。1～65535 の範囲で指定します。

<b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ データベースサーバ名は右側の[▼]をクリックして表示される候補から選択してください。ただし、64bit版のSQL Server®をご使用の場合は候補が表示されませんので、手動にて入力してください。(Express EditionのMicrosoft® SQL Server®を既定のインスタンス名でインストールした場合は「(local)¥SQLEXPRESS」となります。Standard Edition以上で既定のインスタンスでインストールした場合(インスタンス名無し)は、「(local)¥」となります。)</li> <li>・ 初回インストール時は、必ず「新規データベースを作成する。」をチェックしてください。</li> <li>・ 再インストール時など既にデータベースが作成済みの場合に「新規データベースを作成する。」をチェックしますと、データベースが初期化されデータが全て消去されてしまいます。</li> <li>・ 別のPC・サーバ上で稼働するプログラムからConsoleDA ManagerとConsoleDA Update Serverの「受信するポート番号」(TCPポート)に接続できるよう、Windows® Firewallやセキュリティ製品が提供するFirewall機能の設定を調整してください。</li> </ul>
<b>補足</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既定値のTCPポートが他の製品によって使用されている場合は、他のポートを設定してください。</li> </ul>

4. 「初期設定2」では、ConsoleDA Manager の正副冗長化構成情報を設定し、「次へ(N)>」をクリックしてください。



入力項目の説明

- |                                    |  |
|------------------------------------|--|
| ConsoleDA Manager の冗長化を行う。         | ConsoleDA Manager の冗長化を行います。   |
| このインストールでの ConsoleDA Manager の役割   | このインストールでの ConsoleDA Manager の役割を選択します。ここで正を選択した場合は別マシンが副に、副を選択した場合は別マシンが正となります。 |
| 別マシンの ConsoleDA Manager の IP アドレス: | 別マシンの ConsoleDA Manager がコマンドの送受信に使用している IP アドレス。                                |
| 別マシンの ConsoleDA Manager の 受信ポート:   | 別マシンに ConsoleDA Manager をインストールした時に設定した受信ポート 1 の値。1～65535 の範囲で指定します。             |
| 別マシンのデータベースサーバの IP アドレス:           | 別マシンの ConsoleDA Manager が使用しているデータベースサーバの IP アドレス。                               |
| 別マシンのデータベースサーバの インスタンス名:           | 別マシンに Microsoft® SQL Server®をインストールした時に設定したインスタンス名。<br>(例:SQLEXPRESS)            |
| データベースサーバのミラーリング機能を利用する。           | 使用する Microsoft® SQL Server®にてデータベースのミラーリングを行う場合にチェックします。                         |

<b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ConsoleDA Managerの冗長化機能は、「Hitachi bd Link Version3 /CB」ではお使いいただけません。</li> <li>▪ データベースのミラーリング機能は、Express EditionのMicrosoft® SQL Server®ではお使いいただけません。</li> </ul>
<b>補足</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 「別マシンのConsoleDA ManagerのIPアドレス」と「別マシンのデータベースサーバのIPアドレス」は、通常同じ値になります。</li> </ul>

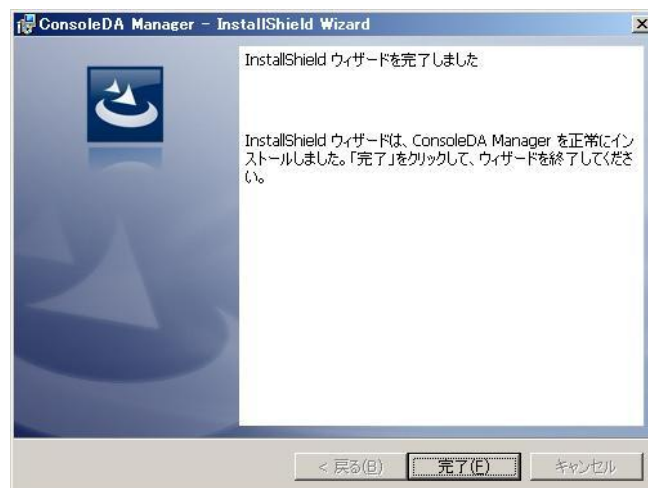
5. 「インストール先のフォルダー」では、ConsoleDA Manager をインストールするフォルダーを指定し、「次へ(N)>」をクリックしてください。



6. 「プログラムをインストールする準備ができました。」で「インストール(I)」をクリックし、インストールを開始してください。



7. 「InstallShield ウィザードを完了しました」が表示されたら、「完了(F)」をクリックしてセットアップを終了してください。  
Hitachi bd Link Version3 /CB と /CB-AP をご購入の場合は、続いて Advanced Pack のセットアップを行ってください。



<p><b>注意</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インストール中のデータベースの構築でエラーとなる場合は、SQL Server Management Studioを実行し、「セキュリティ」-「ログイン」にある「NT AUTHORITY\SYSTEM」のプロパティを開き、サーバーロールの「sysadmin」にチェックが入っているか確認してください。入ってなければ、チェックをいれて「sysadmin」を有効にしてください。</li> </ul>
<p><b>補足</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定入力が必要とするインストール画面では、あらかじめ既定値が表示されている項目があります。変更の必要がない場合、既定値のまま設定を行ってください。</li> <li>ConsoleDA Managerのインストール完了後、各種設定を変更する場合は「<a href="#">4.環境設定ファイル</a>」を参照してください。</li> <li>Advanced Packのセットアップについては、「Advanced Packセットアップガイド」を参照してください。</li> </ul>

### 3 ConsoleDA Managerのアンインストール

• ConsoleDA Manager をアンインストールするには、次のように操作します。

1. [コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除]を開き、ConsoleDA Manager を選択して「削除」ボタンをクリックしてください。



2. 確認ダイアログが表示されたら「はい(Y)」をクリックして、ConsoleDA Manager をアンインストールしてください。



アンインストール時に次のダイアログが表示された場合は、そのまま「OK」をクリックしてアンインストールを続行してください。



## 4 環境設定ファイル

環境設定ファイル名: Manager.exe.config

既定のファイルパス: C:\Program Files\Hitachi\ConsoleDA Manager (32bit OS の場合)

C:\Program Files (x86)\Hitachi\ConsoleDA Manager (64bit OS の場合)

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<configuration>
  <configSections>...</configSections>
  <managerConfig logKeepDays="7"① bladePollingInterval="30"② remotingPort="60000"③
    poolProviderPort="60554"④ agentPort="60001"⑤ statusLampAlert="Chassis"⑥
    statusLampAlertInterval="3"⑦ updateServerEndpoint="コンピューター名:60002"⑧ >
  <databaseConnections>
    <add name="Principal" connectionString="connection-string" />⑨
    <add name="Backup" connectionString="connection-string" />⑨
  </databaseConnections>
  <managers role="Master"⑩>
    <manager address="192.168.0.2:60000"⑪ />
  </managers />
  <ipmi password=""⑫ />
  <alertMail sender="a@consoleda.com"⑬ smtpServer="127.0.0.1"⑭ port="25"⑮>
    <clear />
    <recipient address="a@consoleda.com"⑯ />
    <recipient address="b@consoleda.com"⑯ />
  </alertMail>
  <retention hardwareMonitor="3"⑰ history="3"⑱ powerSaving="3"⑲ alert="3"⑳ />
</managerConfig>
<appSettings>...</appSettings>
</configuration>
```

\*は、ConsoleDA UI 上の「設定...」ボタンで表示される設定画面で設定後に表示されます。

#	項目設定	既定値(設定範囲)	説明	備考
①	logKeepDays	7 (1 以上)	トレースログファイルの保存期間。	単位:日
②	* bladePollingInterval	30 (0,10~600)	ブレードの電源状態ポーリングの間隔。 0 の場合、ポーリング無し。	単位:秒
③	remotingPort	60000(1~65535)	Manager のコマンド受信用ポート番号。	
④	poolProviderPort	60554(1~65535)	HCBPoolProvider が接続するポート番号。	
⑤	agentPort	60001(1~65535)	Agent に接続するときのポート番号。	
⑥	* statusLampAlert	Chassis(Chassis   Blade)	STATUS ランプ点灯時のアラートメールの送信単位。	
⑦	* statusLampAlertInterval	3(1~5)	statusLampAlert が Chassis の場合のメール送信間隔。	単位:分
⑧	updateServerEndpoint	コンピューター名:60002 (1~65535)	ConsoleDA Update Server のコンピューター名と受信用 ポート番号	
⑨	connectionString	DB 接続文字列	Manager が使用する DB への接続文字列。	2つまで登録可。 記述順で優先度を決定。
⑩	role	Master(Master   Backup)	Manager の役割を指定。	
⑪	address(manager タグ)	manager-ip-address:port	監視する対向 Manager のアドレス。	
⑫	* password	ipmi-password	BMC に設定されているパスワード。	暗号化対象。
⑬	* sender	mail-address	アラートメールの送信者アドレス。	
⑭	* smtpServer	ip-address	SMTP サーバの IP アドレス。	
⑮	* port	25(1~65535)	SMTP サーバのポート番号。	
⑯	* address(recipient タグ)	mail-address	アラートメールの受信者アドレス。	複数指定可。
⑰	* hardwareMonitor	3(1~36)	H/W モニターログの保存期間。	単位:月
⑱	* history	3(1~36)	稼動履歴の保存期間。	単位:月
⑲	* powerSaving	3(1~36)	省電力高価値の保存期間。	単位:月
⑳	* alert	3(1~36)	アラート情報の保存期間。	単位:月

※項目設定の文字列の大文字と小文字は区別されます。